

府中国際交流サロンは、府中に住む日本人と外国人が、仲良く助け合って、楽しく生活していくことを願って、活動を続けています。

くろすろ〜ど

だいごう
第310号

そうりつ しゅうねんきねん がつとくべつごう
2026/ サロン創立30周年記念1月特別号

かいほうし
会報誌



「府中国際交流サロン30周年に寄せて」

ふちゅうしちょう たかの のりお
府中市長 高野 律雄

1995年に府中国際交流サロンにおいて外国人住民を対象とした日本語学習会が始まり、本年度30年が経ちました。本市に住まわれる外国人と日本人の共生のために活動を続けてきてくださった、ボランティアの方々をはじめとする関係の皆様、厚く御礼申しあげます。

さて、本市の外国人住民数は、この30年間で2,498人から6,932人へと約4,500人増加しました。外国人住民と日本人住民が地域でともに安心して暮らせるまちづくりのためには、日本語でのコミュニケーションが不可欠であり、府中国際交流サロンが果たす役割は非常に大きなものと認識しています。

府中国際交流サロンの近年の活動を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による日本語学習会の一時休止と再開(2020年)、男女共同参画センター「フューール」への会場移転(2023年)、土曜日学習会の開始(2025年)など、様々な状況の中で柔軟な対応をしてくださった皆様に、改めて心より感謝申しあげます。

結びに、府中国際交流サロンのボランティアと学習者の皆様のさらなる飛躍とご発展を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

「創立30周年を迎えて」

ふちゅうこくさいこうりゅう じつこういんかい
府中国際交流サロン実行委員会
かいちょう わだ やすひろ
会長 和田 泰弘

1995年4月に産声を上げた府中国際交流サロンは、2025年4月で30周年を迎えました。日本語学習支援を中心に、文化交流、生活情報支援を理念として、府中で暮らす外国人の方々が少ないながらも快適に暮らせること、また日本人と外国人が仲良く助け合って楽しく生活することを願って30年の長きにわたって支援活動を続けてくることができました。これもひとえに、活動に携わってこられた幾多のボランティアの方々の熱意と誠意があってこそのことと、深く感謝いたします。

サロンを巣立ちベトナムに帰国後、現地の日本の会社に就職した学習者から本誌に寄せられた30周年へのメッセージにこんな一節があります。

「日本語は私の人生を変えてくれました。いつか家族と一緒に日本へ行き、子供に素晴らしい日本国を見せてあげます。」(原文のまま)と。本人にとって日本で過ごした時間が人生の大切な財産になっていることを思うと、こちらこそ、この上なく貴重な時間をいただいております、と伝えたくになります。

これから10年、20年先も、サロンが、学習者にとっては快適な居場所として、またボランティアにとっては人生の生き甲斐の場として在り続けることを願っています。



サロン30年の歩みを振り返って～歴代会長座談会～



せんばたかし
仙波 昂 さん
ざいにんきかん ねん ねん
在任期間2000年～2011年



おがわひでき
小川 秀樹 さん
ねん ねん
2012年～2014年



のがわとよこ
野川 豊子 さん
ねん ねん
2015年～2017年



たかみ まさあき
鷹見 正昭 さん
ねん ねん
2018年～2019年



わだ やすひろ
和田 泰弘 さん (司会進行)
ねん げんざい
2020年～現在

「府中国際交流サロン」の歴代の会長を務められた皆さまにお集まりいただき、昨年(2025年)11月26日、フチュールに於いてサロン30年の歩みを語っていただきました。出席者は、仙波昂さん、小川秀樹さん、野川豊子さん、鷹見正昭さん、和田泰弘さんです。

～サロン設立の経緯と草創期～

司会) 今年、府中国際交流サロンが30周年を迎えました。そこで、その歩みを歴代の会長さんに語っていただこうと思います。今日はよろしくお願いたします。まず、創立当時の経緯ですが、詳しいのは仙波さんだと思いますが、そのあたりをお話しいただけますか？

仙波) 話は創立よりさかのぼりますが、そのころ府中市には6つの国際交流団体がありましてね、その6団体(「世界の音楽を楽しむ市民の会」「ラボ国際交流センター」「府中国際交流会」「虹

の会」「府中国際交流クラブ」「東京武蔵府中ロータリークラブ」)によって1993年に「府中国際交流団体連絡協議会」ができたんですね。

司会) 私はそのうちの一つの「府中国際交流会」にいました。

仙波) それで、サロンの初代会長を務められた佐藤知子さん(「世界の音楽を楽しむ市民の会」代表)のところに94年に市から日本語教室をやってくれないかと…当時の東課長からですね、要請がきたんです。8月に佐藤さんが中心になって



テスト的に始めたわけですが、何とかいけるという
ことで、翌年95年の4月に「府中国際交流サロ
ン」が設立されました。私は、その年の1月から
参加しています。

司会) 初代の会長が佐藤さんで、3年くらい…。

小川) 95、96、97年。そのあと西野さんが2年。

仙波) 私が2000年から。

司会) 2011年まで。そのあと小川さんですよ、
2012年から何年？

小川) 3年。

司会) スタート時はどんな様子だったんです
か？

仙波) 日本語教室は金曜夜の1回だけで、学習
者は5～6人でした。教室は府中グリーンプラ
ザ(2018年3月閉館)でした。

司会) イルベイ(クルド出身)さんが最初の学
習者と聞いてますが…。

仙波) そうです。彼は1月から参加しててね。そ
の時は大森さん(現・金夜ボランティア)が担当し
てましたね。

司会) あとパキスタンのナビートさんもいまし
たね。一緒に学習したのを覚えてます。学習会が
増えていったのはいつ頃からでしょうか？

仙波) 6月に金曜午後の教室が始まり、週2回
になりました。なにせ、素人の集まりで、ロータリ
ークラブの方が運営を心配されて、会計と企画
部会はロータリークラブの方が手伝ってくれまし
た。2～3年経ったころ、もう大丈夫だろうとい
うことで運営はすべてサロンのほうでやることにな
りました。

司会) 小川さんは仙波さんの後を引き継いで
会長になられたわけですね。今は実行委員会がサ
ロンの運営を担っていますが、当時はどうだった
んですか？

小川) 実行委員会と運営委員会の2階建てでし
た。実行委員会は市との委託内容について審議、

決議をする場で、運営委員会は実際の活動を担っ
てました。ただ、実行と運営とどう違うんだと…
わかりにくいという声があり、二つの組織をやめ
て実行委員会に一本化されたのは2015年でした。

司会) 活動のメインである学習会は金曜の2回
から増えていったんですね。

小川) 徐々に学習者も増え、1997年に、ほぼ同時
に月曜の午前と午後、水曜の午後にできました。

司会) 創立2年後には、もう学習会は5部会に
なったんですね。

小川) そう、場所も府中グリーンプラザから北
第2庁舎へ移りました。

仙波) その頃「くろすろ〜ど」ができたり、託児
も始まって、それから学校派遣というのも始まっ
た。

司会) 最初は「けやき並木」という会報誌があっ
て、それを2年くらい出して、で、97年11月に「く
ろすろ〜ど」に名前をかえました。

仙波) 「けやき並木」は季刊誌で、年に4回で。
英語と日本語と両方あってね。

司会) 「くろすろ〜ど」は月刊の発行で、それは
今も続いています。初代の編集長は数納さんとい
う方、その次が篠塚さん、そして3代目が私(和
田)になります。

～日本語教授法研修始まる～

司会) 小川さんが在任中に、日本語ボランティ
アのための育成講座みたいなものを立ち上げられ
たって聞いてますけど。守田さん(現・月午後ボラ
ンティア)と植草さん(現・月午後ボランティア)が
尽力されて川上京子先生(元・東京外大教授)を
呼ばれました。

小川) 川上先生のあとも女性の先生…藤森先生、
横井先生、柏崎先生、山田先生。横井先生のころ
から必修になりました。



司会) 山田先生は今期が最後になり、そのあと藤森先生が担当していただきます。山田先生は2019年から5回担当されて、今ボランティアが約150名ほどで、半数以上が柏崎先生、山田先生を受けられた方なんですよね。

小川さんの次が野川さんで、佐藤さん以来の女性の会長で、2015年からですね。

仙波) ちょうど20周年のときですね。

野川) そうですね。みなさんが何を望んでいるのかな、と。学習会が違うとほとんど触れ合いがなかったので。それで顔を売ろうと思って、ずっと事務所にいたんですよ。ここに住んでるのかと冗談を言われるくらい。(自分は)月曜午前だけだったので。そのおかげで困っていることなどの情報ももらって、今の生活情報支援部会に結びついてきて…。

司会) サロンは理念として、日本語学習支援がメインで、それから文化交流活動、生活情報支援と3本柱があるんですけど、生活情報も大事だということで部会にしましたね。

～コロナで冬の時代～

司会) 野川さんの次が鷹見さん、2018年に就任されましたね。どんな時代でした？

鷹見) 一番大きいのはコロナなんですよね。

仙波) それ大変だったよね。

鷹見) 20年の2月ですね。当然府中市の施設を使ってるこの日本語学習会だって、やることはできないだろうと。3月に日本語学習発表会が予定されていて、2月の末に、3月からの事業はやめたほうがいいということでやめました。6月になってやっと臨時の実行委員会が開けるようになって、学習会を再開したのが7月でしたね。それもちょっとやって、すぐ夏休みで、やったりやらなかったりの連続でした。

司会) 国の対策に従ってね。例えば事務室に入るのに導線を書いて…消毒液置いたり体温計置いたり、あとマスク着用。フェイスシールドを購入して万全の対策をね。それが3年くらい続いたのかなあ。その間日本語学習発表会とかサロンの集い、バーベキューは中止、本当もう休眠状態でしたね。

～スピーチコンテストから

日本語学習発表会へ～

司会) 先ほどちょっと出た日本語学習発表会、あれはある年から運営が各学習部会の順番制になったんですよね。コロナの時は月曜午前が担当でね、全部準備ができてたんですけど、やむなく中止になってしまって、そこから3年すっぽり空いてしまいましたね。

小川) そもそもは、会場も府中グリーンプラザで「スピーチコンテスト」だったんですよ、名前がね。で、優秀、最優秀とか、そういった賞金をロータリーが提供して。中河原にあった東京大学の留学生日本語教育センターの人たちがね、ずいぶん賞を取ってました。

野川) もうみんな上位をね、取ってしまう。

仙波) 前はロータリークラブが主催で、我々はまあ協力みたいだったんですけど。府中市の外国人誰でもが応募できるというスタイルだったので。

司会) それでサロンで日本語を学ぶ学習者のみを対象にして、サロンが主体になって継続することになった。東京武蔵府中ロータリークラブさんには毎年協賛をいただいていた今年で13回目を迎えます。途中コロナで中断してしまっただけでも、2023年に復活できて、去年もできて、で今年もね、12月に開催されます。



～3.11・東日本大震災に遭遇して～

野川) 仙波さんの任期の最後の年(2011年)に3.11(東日本大震災)がありましたよね。

仙波) 金曜午後の、本当に学习中ですよ。

司会) 鷹見さん、金曜でちょうど遭遇されたんじゃないですか？

鷹見) 縦揺れがすごかったね、あ、これは大きい。で、(机の下に)入り込む人、誰もいなかったの。逃げてね、教室を回ってたの。泣きわめいてね。外を見たりしてるの。それで人によってはエレベーターで下に降りちゃう人もいた。

司会) 防災訓練でね、エレベーターは使っちゃダメだって言っていましたけど。

鷹見) それあってからですよ。その年から(避難訓練を)やらなきゃだめだっていう機運が高まって、確実にやるようになった。

仙波) 学習者は、親に帰ってこいって言われるんですよ。あの福島で。

司会) 放射能が心配で学習者も相当帰国しましたね。

～学習者の傾向～

司会) サロンの30年の歴史の中で、その時代によって学習者の流れが変わったりと。例えば90年の入管法改正の後、ブラジルの学習者がどっと増えて。金曜の夜なんかはにぎやかでね、休憩中にサンバ踊ったりとかね。

野川) 午前とか午後とかはブラジルの人には来なかったですね、仕事で。

司会) その後ITの隆盛もあってインドの学習者も増えたんですよ。そういう学習者の推移、特徴を覚えてらっしゃいます？ 去年の3月時点ですが、今は中国の方が一番多いんですね。次い

でベトナムの方。30年前とか20年前はどうでしたか？

仙波) ベトナムの学習者はゼロだったよね。始まったときは。

司会) 技能実習制度が始まってからはベトナムの方が増えましたね。そういった社会の制度を反映しているといったような記憶があります？

野川) 月曜の午前はお母さんが多かったんですよ、留学生の。奥さんが留学生で夫が仕事をやめて来たとかね。単身赴任なんてもってのほかとか言われて。

仙波) そうです。ご主人のほうがついてくるのが多かった。

野川) 子育て中の方が多かったですね。

司会) 学習部会それぞれにカラーがありますよね。鷹見さんは最初から金曜の午後ですか？

鷹見) そう。台湾の方がね、意外と多かったなと思った。結構日本に対しての印象がいいんだよね、話してるとね。同時に、留学生が減ったなっていうのが私の印象で。農工大とか東京外大関係の人が日本語を早く覚えたいという形で来ていたのが、最近ほとんどいないなというのが特徴かな。

司会) 農工大も足が遠のきましたね。

野川) 日本語を使う場所がないって言ってますもんね、授業が英語だから。でも街へ出たら日本語しゃべらなきゃいけない。

仙波) そうなんだ、残念でしょうがないって。せっかく日本に3年も4年もいながら日本語話せなくて帰ってしまう。

鷹見) この一年で新しい人3人教えて、日本で仕事しますって。日本に帰化するとか永住権取るとかってことが後になって出てくるわけですよ。だから日本語続けてないと大変だと思う。

野川) 日本で仕事をみつけないって人は増えませんでしたね。



仙波) アフガニスタンの方は、生まれたときから戦争やっているので、もう帰りたくないとかね、そういう人結構いましたね。

小川) 国の傾向って、特に月曜午後ではそんなに際立ったりはないですけど、記憶に残っているのはアフガニスタンの、ご主人が農工大の博士課程で、政権が代わってから居るのが危なくなつたからと、奥さんがちょっと後で来て。

司会) アフガニスタン、ミャンマー、あとウクライナも、政情不安で来られたって方がここ数年多い。やはり、学習者は時代を反映していますよね。

さまざまな交流活動～

司会) 学習会のほかに、サロンは色々な交流活動をしてきたわけですが、思い出に残る活動、何かありますか？小川さんは色々、携わってこられました。

小川) 企画部会が動いてくれて、バス研修、色々行きましたけどね。結構人気でね。印象にあるのは羽田の、JALの整備工場ですね。機体整備の見学ってことですね。

鷹見) 学習者は喜んでましたね。また行きたいと。

小川) 小田原の…かまぼこ工場見学…。

司会) あっ、「丸う」ね。行きました。かまぼこ作りの体験をしましたね。練り物の食感が初めての学習者も多かったけど、結構楽しんでましたね。小田原はそのあと、小田原城見学や清閑亭(明治時代の侯爵の別邸)にも行きましたね。

鷹見) あと草加の煎餅工場ね。

野川) 煎餅作りを体験しましたね。

司会) あと川越にも行きましたね。野田のキッチン醤油工場も。山梨は…あの…どこでしたっけ？

仙波) ああ、恵林寺ね。

司会) 武田信玄の菩提寺のね。ワイナリーとかにも行きましたね。ベトナムの学習者が試飲をして真っ赤な顔をして、帰りのバスでぐっすり寝てましたね。

仙波) 江の島も行ったし。

司会) 学習者にとっては、とても新鮮だった。

小川) そうですよ。歴史や文化に触れてね。

司会) これから新しいそういう企画も、一方で考えていかないと。

仙波さん、記憶に残る活動やイベントは？

仙波) それはやっぱりなんと言ってもサロンの集いでしょう。だんだんだんだんだん盛大になってね。初めは、あの東府中の商工会議所だね。

野川) やりましたね。

仙波) 飲食物は持ち込みやケータリングが多かったんですよ。

司会) 僕の記憶ではその商工会議所もあったし、グリーンプラザの会議室だったこともあるし。

仙波) 北第2庁舎の学習会の会議室、あれも使いましたね。

野川) 北第2庁舎の時は、料理を中央文化センターの調理室で作って、小川さんたちがピストン輸送ですよ。作った料理を全部コンテナに入れて。

司会) サロンの集いの目玉は、学習者を作る各国の料理でしたね。

野川) そうです、あの全員参加型のね、みんなですね。

ベトナムの生春巻きやタイのパッタイ、ナシゴレン、中国の水餃子、韓国のおろし海苔巻き、トッポギなどですよ…。

司会) コロナで3年中止になって、今年3月に復活したけど、コロナ前の2019年は白眉で、確か今まででいちばん多い20種類以上の料理がありましたね。僕が王雪氷さんに附いて作った「よだれ



「どり鶏」は人気で、あつという間になくなってしまった。

鷹見さんは、いかがですか？

鷹見) ま、やはり、サロンの集いですかね。コロナの前までは、やっぱり皆さん賑やかで生き生きして楽しんでいたなと思いますね。

司会) 今年3月に、久々にサロンの集いが復活しましたけど、前と比べるとだいぶ様相が変わりましたよね。

野川) そうですね。それはありますね。

司会) 今回は今回で和気あいあいで楽しかったと思うんだけど、またこれから先ね、変わっていくと思うんだけど。

野川) だから前に私たちがこうやったものを若い人たちにバトンタッチするっていうのが、もうそういう時かなっていう風に思っ…。バトンタッチっていうのは大事なんだっていう風に最近思っています。

司会) 結局、学習会はね、週6回でね、分かれていますでしょ。なかなかこう一堂に会する場とか、学習会を超えての交流の場はないんですね。

野川) ないですね。

仙波) やっぱりそういう場は必要ですね。日本語も大事だけど。

司会) そういった意味でもできるだけ全員が集まれる場所は大事だからサロンの集いもそうだし日本語学習発表会、あと、できればバス研修とかね、できるだけ場を作りたいですね。



～将来のサロン像～

司会) そろそろ時間も迫ってまいりました。最後に、これは話しておきたいというひと言を。

小川) 私見ですが、ボランティアが先生と呼ばれることに、なんて言うのかな、ある種の満足感なりね、高揚を感じるのかなって気がするんですけど、それは違うだろうという話。学習者もボランティアも対等な関係だと思っ…

仙波) 先生だから上だというような感じを持たせるのはよくないですね。

小川) 私はね。私は、先生はやめてくれ小川さんでいいですよって言ってるわけですね。

司会) 学習者によっては、教えていただいているという思いが強く感謝の意味をこめて先生と呼ぶ方もいますね。それは関係性によると思いますね。

仙波) 私は30年間教えてるんですが、はっきり言うとサロンだけでは日本語が上手にならないよっていうことをやっぱりボランティアも学習者も含めて考えないと。将来のサロンを考えたときにやっぱり話すということにもっと重点を置くようにするのかが課題として残ってるなって感じがしますね。

司会) 確かに。サロンの学習だけで、しかも週1回だけで流暢に日本語をしゃべれるかという、疑問ですね。やっぱり、本人の努力や日本語学校に通う必要もあるだろうし。生活に困らない程度の日本語を喋れて、あと人との交流ができる、その辺がサロンの使命かなと。

仙波) いやいや、そうですね。それがサロンの一つの大きな行き方ですね。

野川) サロンだけでは日本語が上達しないのかもしれないけれどサロンに来ていることで生活が楽しく感じられるようになればいいのでは。何か悩んでる時に誰かが見てくれるというね。そう思ってくれるだけでサロンっていうのは素晴らしい



のかなっていう風に思います。

司会) 週 1 回でも、心地よい居場所としてね。

仙波) そう、困ったらサロンが最後の砦みたいな。やっぱり府中に住んでよかったと思ってもらえるような。

野川) 故郷だと思ってくれたらうれしいですよ。

鷹見) 日本で生きてもらうために、新聞を読むぐらいというのが必要なことじゃないかと私は思っている。だからその前段階としてボランティアをやってますと私は割り切っています。

司会) 皆さんの話を総合すると、これから20年、30年先もサロンは日本語を学ぶだけでなく、居場所としてとても居心地がいい場所でありたいと。ボランティアにとっても楽しく生きがいがある場所にしていきたいですね。今日はどうもありがとうございました。(採録・構成 編集部)

がくしゅうしゃしゅつしんこくいちらん 学習者出身国一覧 &

がくしゅうしゃとうろくすう ボランティアと学習者の登録数

国・地域 名称	人数	国・地域 名称	人数
中華人民共和国	55	アルゼンチン共和国	2
ベトナム社会主義共和国	23	英国 (グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)	2
大韓民国	16	オーストラリア連邦	2
フィリピン共和国	7	スペイン王国	2
インドネシア共和国	7	南アフリカ共和国	2
アフガニスタン・イスラム共和国	7	ブラジル連邦共和国	1
日本	6	モンゴル国	1
ネパール	5	ウズベキスタン共和国	1
ミャンマー連邦共和国	5	イタリア共和国	1
インド共和国	5	エジプト・アラブ共和国	1
フランス共和国	5	ケニア共和国	1
カナダ	4	コロンビア共和国	1
スリランカ民主社会主義共和国	3	コンゴ民主共和国	1
アメリカ合衆国	3	ドイツ連邦共和国	1
タイ王国	3	ナイジェリア連邦共和国	1
マレーシア	3	ポーランド共和国	1
台湾	2	メキシコ合衆国	1
バングラデシュ人民共和国	2	ロシア連邦	1
パキスタン・イスラム共和国	2	ごうけい 合計	186

※2025.11.31時点

がくしゅうしゃとうろくすう
学習者の登録数 : 186人

ボランティアの登録数 : 144人

ふちゅうしみん
府中市民 : 262, 158人

がいこくじんじゅうみんすう
うち外国人住民数 : 6, 932人 (2025年12月1日現在)

がいこくじんじゅうみんすう
外国人住民数のうち学習者登録率 : 2.68%



5部会の歩みを振り返って

「研修部会の歩み」

研修部会長 萱生 由美子

研修部会のスタートは2009年に数名の有志により立ち上げた『勉強会』でした。

ボランティアの自主的な勉強会を目標に、2009年10月27日の第1回のテーマは、“今、困っていること、聞いてみたいこと”で、23名が話し合いに参加しました。それから現在に至るまで113回(2025年11月25日)を重ね、テーマ別に、時々プロの講師の先生をお招きして実施されています。

2010年にこの有志グループは部会として認められ「勉強部会」の名称になりました。

そして、「勉強部会」は2015年4月より新ボランティア養成の為の『日本語教授法研修会』の企画、実施の担当となり、名称も「研修部会」となりました。

それ以来2025年度まで、柏崎雅世先生(3回)、やまだしげみ先生(5回)による計8回の研修を実施しており、多数の卒業生が現在サロンでボランティアとして活躍しています。

(注：コロナの為2020、2021年度は中止しました)



日本語教授法研修会



終了証授与

「文化交流部会30年のあゆみ」

文化交流部会長 里村 恵

私たち文化交流部ではサロンに通う外国人を対象として日本の文化を伝える事、趣味活動を通じて楽しく潤いのある日々を過ごしてもらう事、交流を通してお互いの文化を知る事などを目的として活動を続けて来ました。

現在、府中市在住の外国人数は6900人超、30年前はその半数にも満たず、当サロンに通う学習者もそれに比例して徐々に増え、彼らからの要望で2006年に当部会が発足しました。

当初はお茶会程度の集まりでしたが、年を追うにつれ生け花、絵手紙、浴衣着付け、お茶などに精通したボランティアの協力もあり活動が増えていきました。コロナ禍の後は、外部に向けての活動が活発になってきました。市のイベントの「キテテ府中マルシェ」での民族衣装をまとったお国紹介や「桜まつり」での民謡流しへの参加などです。また、季節ごとの花見会やワールドcafeも人気があります。

今後は日本古来の文化活動に加え、時代とともに様変わりする学習者のニーズに合わせて日本での生活がより充実するような活動を続けていきたいと考えています。



浴衣の着付け



生け花

「サロン企画部30年の歩み」

企画部会長 漢人 邦夫

企画部は、学習者とボランティアの交流、サロンと市民の方々との交流、そして国際交流サロンの活動の理解を得る活動を進めてきました。

その活動範囲は、多彩で、交流活動としては、サロンの集いの開催、BBQ、バス研修会等の実施。府中市民との交流の場として、桜まつり、協働まつりへの参加をし、サロンの活動を知ってもらう活動をしてきました。

近年、インターネットの普及に伴い、ホームページの大幅改修(2025年)が行われ、積極的に情報を発信しています。また、サロンの新ボランティアの参加を促すために、各国のお菓子を作る会なども実施しています。

活動範囲が広いなか、課題も多く、様々な企画を推進するのに必要なスタッフの不足が頭痛の種です。



サロンの集い 2025年3月1日

「生活情報支援部会の歩みと課題」

生活情報支援部会 桑島 宗利

1. 2011年の東日本大震災の直後サロンの学習者や外国人市民から不安の声が届き、ボランティア有志が相談コーナーを開設。その後、様々な活動を始動、2017年に生活情報支援部会を発足。「外国語で対応してくれる市内の病院名地図」や「やさしい防災ノート」を作成。情報共有と協働の輪を広げた。

2. 部会発足後、外国人児童、生徒の指導のため文科省アドバイザー(東京外語大小島教授)の講演会を教育委員会、校長会、市の協力で実現。ソーシャルワーカーとの提携で子ども達の援助活動も行い、他市国際協会のご支援で「保護者のための小学校入学案内」を作成(2022年8月)。

3. 2019年、台風19号を体験し避難所体験や防災講座を重ねている。

4. 現在、都の多文化コーディネーター事業を通じて「東京外国人支援ネットワーク」に加入し連携。多文化共生センター(DIVE)との連携で、サロンを含む外国人市民との情報共有、助け合いも検討中。

皆さんの参加、ご協力をお待ちしています。



防災(消防)講習会

「30年の活動を振り返って」

かいほうぶかいちょう すえだ けいじ
 会報部会長 末田 圭治

かいほうぶ かつどう げっかんかいほうし
 会報部の活動は、月刊会報誌『くろすろ〜ど』の発行です。『府中国際交流サロン』創設(1995年・平成7年4月)の3ヶ月後の7月9日に、前身となる会報誌『けやき並木』が誕生し、1997年(平成9年)11月に瓦版『くろすろ〜ど』(月刊)が創刊されました。現在は、年間11ヶ月発行(8頁仕立て)として、この1月号で、310号を迎えました。これは、サロンの歩んだ30年の記録でもあります。ホームページには、2015年から現在までの『くろすろ〜ど』を掲載しています。

『くろすろ〜ど』という名には、「ひとひと 文化と文化が会う十字路(crossroad)」という思いが込められ、その理念に沿ってボランティアと学習者の皆さんの交流の場を目指す誌面作りは、30年間、連綿として続いています。これも、ひとえに原稿を寄せてくださり、熱心に目をとおしてくださった皆様のご協力の賜物です。

これからもご支援のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。



ふちゅうこくさいこうりゅう
[府中国際交流サロンホームページ](#)



かいほうし
[会報誌のページ](#)



へんしゅうきかくかいぎ ひと
 編集企画会議の一コマ



サロンを巣立った学習者からのメッセージ

「サロンは、日本での second home」

王 雪冰 (中国)

私が府中国際交流サロンで学んでいたのは2018年ごろで、府中で暮らした6年間の中でも特に大切な時間です。岡先生(元・月午後ボランティア)には、大國魂神社で歴史や昔話を交えた屋外授業をしていただき、手話グループにも同行させていただきました。ことばだけでなく、表情や視線、身振り手振りなどの大切さに気づくことができました。和田先生(現・金夜ボランティア)の授業では『天声人語』を通して文章の背景や日本社会について学び、「日本語で書くことはおもしろい」と感じるようになりました。サロンは、私にとって日本での“second home”です。創立30周年、心よりお祝い申し上げます。これからも多くの人にとって、安心して学び、語り合える場所であり続けますように。

ます。あの日は本当に楽しく、忘れられない思い出です。

また、金曜日の授業後、和田先生や仙波先生とサロン近くの中華料理店で食事や飲み会をしたことも大切な思い出です。いろいろなお話をし、とても楽しく温かい時間を過ごしました。

このたび、府中国際交流サロンの30周年をお祝いし、先生方がこれからも元気で楽しく過ごされることを心より願っています。サロンがこれからももっと発展し、日本語を学びたい人や、日本の生活・文化を知りたい学習者にとって、素晴らしい場所であり続けますように。そして、日本語だけでなく、日本でのいろいろな経験を教えてください。先生方に、心から感謝申し上げます。

それらの経験は、私にとって一生忘れない大切な思い出です。



「一生忘れられない大切な思い出」

チャン・タイ・ホック (ベトナム)
※学習した時期:2014年4月～2015年6月

府中国際交流サロンといえば、私は初めて先生方と一緒に府中市のお祭りに参加した思い出がすぐに浮かびます。日本で初めてのお祭りで、先生方と一緒に歌って、踊って、とても楽しい時間でした。特に「上を向いて歩こう、涙がこぼれないように」という歌詞は今でもはっきり覚えてい

「サロン30周年記念によせて」

ヌルピヤ・マイマイティ (東トルキスタン)

私は府中国際交流サロンと深い縁があります。大学に通いながらサロンに通い、ボランティアの先生と日本語を勉強したり、着物体験会や市民祭りなどに参加したりして、とても充実した日々を過ごしました。2017年からウイグルの状況が悪化し、帰国することができず、昨年からはドイツに住んでいます。私は母となりましたが、今年の9月からオンラインのウイグル語学校で



ランティア講師として、海外に住むウイグル人に週1回ウイグル語を教えています。府中国際交流サロンでボランティアの先生方から学んだ貴重な経験や精神を生かし、日々頑張っています。

この機会をお借りして、私に多くの機会を与えてくださった府中国際交流サロンに心より感謝いたします。サロン30周年、誠におめでとうございます。今後ますますのご発展をお祈りしております。



「日本の思い出」

チャン・ティー・ジェム・ニエン (ベトナム)

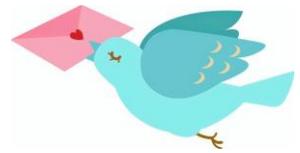
私は日本からベトナムに帰国してすでに十四年が経ちました。しかし、日本での思い出や風景は今でも私の心に刻まれています。日本で過ごした日々は、私にとって人生の大切な財産で忘れることはできません。帰国後、私は結婚し、二人の男の子を授かりました。そして、日本の会社に就職し、学んだ日本語を引き続き使うことができます。本当に、日本語は私の人生を変えてくれました。いつか家族と一緒に日本へ行き、子供に素晴らしい日本国を見せてあげます。また、日本語や日本文化について親切に教えてくれた府中国際交流サロンの先生方に心から感謝しています。先生方のおかげで私は日本をより理解し、今でもその知識が生活に役立っています。日本は私にとって第二の故郷であり、心の中で常に特別な存在です。最後になりましたが、サロンが30周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

「わたしの学び」

セナリ・ニルパマ (スリランカ)

創立30周年記念おめでとうございます。

私は‘22年6月に来日しパン作りの仕事をしながらサロンで勉強しました。夢は国でパン屋を開く事です。日本語を勉強しながら日本のパン製造の資格も取りました。府中国際交流サロンでの勉強は私の人生の転機となったと思います。日本の生活や活動、周りの必要なことを先生方にたくさん学びました。皆様が外国人のために尽力してくださったことに心から感謝申し上げます。これからも皆様のご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。



ボランティアの声～印象に残る活動の数々～

「たくさんの思い出がありました」

金・土曜午後ボランティア 荒木 順子

サロンとの出会いは、今は亡き赤木喜代恵大先輩(元・金曜夜ボランティア)のお誘いでした。初めの頃は学習者さんと会うのが怖く、何時やめようかと悩みながらのサロンでした。ある日、学習者さんから「繰返しやれば良いんですよ」のひと言。まさに「教える事は学ぶ事」を実感。私が教えるなんて無理。技術も知識も能力も何も無い。でも先生ではなく友達にならなれるかな、とスイッチを切替。それぞれ、たくさんの出会いがありました。タイ、ベトナム、中国、アフガニスタン、ポーランド、イタリア等々。国は違っても可愛い娘や息子達です。何かの折一念願の永住ビザがおりた。マンションを買った。時間給が上がったよ。健康診断で引っかかってしまった。免許取れた。父母会の通知が判らない。夫婦ゲンカした。等々一良いことも悪いことも連絡があるのは嬉しい。色々な事情で来られなくなったり、来なくなった人達はどうしているのかな。気になります。以前より街中でも外国の方に行き交うことが多くなりました。言葉だけなら今やインターネットやAI等、翻訳機能も良くなり、話せなくても携帯を見せれば何とかなる世界になってきました。でも、心の通った言葉は教えてはくれないでしょう。日本を好きになり、理解してもらうためのサロンの役割と必要性はさらに大事になるのではないのでしょうか。三十年を迎え、頑張れサロン。これからも活躍の場が広がるよう応援、願っています。

「サロンの活動への想い」

月・金曜午後ボランティア 平島 巖

私は平成22年(2010年)から海外からの学習者に日本語学習の支援を。今年で15年が過ぎました。学習者は海外からの留学生、日本で働く人やその家族達です。私がサロンの活動を始めた理由は、海外の旅先で困った時、その国の人達がとても親切にしてくれたことがきっかけでした。息子が留学した時、現地のホストファミリーにとってもお世話になりました。その時の経験により、日本に来る外国の人々に、「何か支援する事が出来ないか」と思い、この活動に入りました。

学習者のみなさんは日本語を熱心に勉強しています。府中国際交流サロンでは年に一度、日本語学習発表会が開催されます。発表者は担当のボランティアさんと発表の内容を相談しながら準備。一生懸命。発表会当日、多くの聴衆の前で、彼らは緊張の頂点に。「緊張して上手に話せるかな」とやきもき。発表後「話せた」。発表後緊張が一遍にほどけ、皆さんは穏やかな表情に変わります。その後、日本語学習に対する自信や姿勢が変わります。意欲もますます高まっている気がします。日本語学習を始めて間もない学習者が、「こんなにも上手に話せるようになるのか」とびっくり。発表者を大いに成長させてくれる場所です。私達ボランティアは一生懸命皆さんを支援します。サロンで勉強した留学生は卒業後、母国に戻り就職や結婚また日本で就職と。皆さん、色々な人生を歩んでいます。学習者の皆さんには母国と日本との良き懸橋になって欲しいです。私達は応援します。日本にはサロンの仲間達が待っていますよ。



「いま思い出しても冷や汗が…」

月曜午後ボランティア 植草 のぶ子

私が国際交流サロンで日本語ボランティアを始めたのは1997年です。子育ても一段落した頃、日本語教室のことを知人から聞き、自分もやってみたく思っていたとき、市の広報で日本語教授の研修会の参加者募集を見つけました。早速応募しましたが、そのときは募集に外れ、翌年の募集で研修会に参加できました。

研修は4回で、ボランティアの心得や、日本語を教えながら自分が外国語を勉強しようなどと考へてはいけないこと、教えるときは学校で勉強した日本語文法は忘れて、むしろ外国語を習ったときのことを思い出して教えるほうが良いなど、概観的な講義がありました。しかし具体的な教授法は教えてもらえなかったもので、物足りず不安でした。

始めは外で教授法を修めた人の教えるのを見学した後、すぐに実際に教えることになりました。ほとんど手探りで教え始めましたが、無意識に出る何気ない口癖など随分注意され、自分の日本語を改めて気をつけて話すようになりました。

文字カードを作ってみましたがおまぐいせず、絵カードを用意しました。数を教えたときは日本語の数の表し方が何種類もあることに気づき、日本人はこんな複雑な言葉をよく覚えたものだと驚きました。その頃は失敗続きで、今思い出しても冷や汗が出ます。

次の年ぐらいからテキストを使ったもつと細かい教授法の研修会が行われ本当に助かりました。その後、図書室のテキストの種類も増え、教材や辞書、参考書、絵カードなど徐々に充実してきて学習者に合わせて使えるようになり、便利になりました。

「記憶の中の学習者達」

水曜午後ボランティア 辻村 俊雄

サロンへは2008年9月に参加、暫くして週3回に。記録はしてませんが記憶にある学習者達です。

初めての学習者はインドのパピヤさん、デリーのラジオ局で歌っていたそうで、きれいな声でした。

ドミニカ共和国から国費留学生として来たレティに誘われるまま、サントドミンゴの実家でスペイン語しか話さない家族と2週間、翌年には家族が日本に来て一緒に旅行しました。

今は長崎にいるダビイとは実家があるカンボジアの農村スパイリエンに行きました。

ドイツで結婚したウイグルのヌルビヤ、雲南から来た戴さんは農工大の留学生でした。上海から来たという愛ピンと張鳳納さん、出身は常州と河南です。

ハノイに帰ったThuyさんの実家では正月料理をご馳走になりました。真面目なランさんは子育て中、大学入試で来たDatと高校編入試験・大学入試のときだけ来たティティはホーチミン出身でもう働いています。チャンさんはベトナムでN1を取得した才女です。ハノイの日本語学校で教えたYenには大恩寺や日新窟へ連れて行かれベトナム人の抱える諸問題を教えられました。

絶対にN1に合格すると思ったら失敗したフィリピンのエバさん、強面ですが優しいベナンのコシイさん、ラオスのスメーサは子供の為に頑張っています。

今年は遠藤正一君がサルバドルの大学に戻り、フランス人のクレモンが山形へ行き、現在は香港の歐陽熙君とフィリピンのChynnaさんと勉強しています。

サロンではずっとこんな出会いと別れを繰り返しています。



「サロンとともに26年」

金曜午後ボランティア 安島 文江

府中国際交流サロン開設30周年おめでとうございます。

私がサロンに出会ってから、早いもので今年で26年。貴重な経験、思い出がたくさんあります。

「学習部会」では、『教えることは教わること』をモットーにして行動し、コミュニケーションを大切にしながら、頑張ってきました。学習者とボランティアの信頼関係にもつながっていきました。また、「企画部会」では、いろいろなイベントを企画・立案し実行してきました。それぞれに成果と反省があり、それを次につなげていく、という貴重な経験をさせていただきました。

どのイベントにも思い出があります。特に印象に残っているのは、「バス研修」「バーベキューパーティー」「サロンの集い」「国際ふれあい会～私のふるさとを語る」です。“今回はああしよう、こうしよう”と毎回みんなで企画を考え苦勞してきました。イベントでは、参加者、参加者の家族、友人が一緒になって国際交流を深めることができ、みなさんから「楽しかった」「是非また参加したい」など笑顔で喜んでもらったことが、何よりもうれしく励みになりました。

そしてもう一つ、サロンを紹介した「リーフレット」、「チラシ」の作成です。たくさんの方からご協力をいただき、素晴らしいものが出来上がりました。今後、このツールにより、サロンをさらに大きく広めていけるとおもっています。

30周年の歴史は何にも代えがたい素晴らしい財産だとも思います。これは、参加した全員の努力と府中市のご支援の賜物だとも思います。今後とも府中に住む日本人と外国人が仲良く助け合って楽しく生活していくことを願って、活動を続けていきます。



Japanese-Language Learning 日本語学習会

- Foreign residents in Fuchu City 府中市に住んでいる外国人
- One-on-one Japanese lessons with Japanese teachers ボランティアが1週1で日本語を教えます
- Join any 6 available lessons in a week. 週6回学習会があります。

Time	Mon./月	Tue./火	Wed./水	Thu./木	Fri./金
10:00-12:00	*				
14:00-16:00	*	*	*	*	*
18:00-21:00				*	*

To participate 参加するには

- Go to the International Salon (Residence card required)
- Register
- The salon will contact you
- Participate in study sessions

① 国際交流サロンに伺います (住民カード必須) → ② 申し込みをします → ③ サロンから連絡がきます → ④ 学習会に参加します

Address: 府中保健センター1-04 スター・プラザ南館4階 (男女民衆センター内) (東武線中野原駅北口から19分)
TEL:042-352-4178

Opening Hours:
平日 (Mon.) ~ 木曜日 (Thu.) 9:30-16:30
土曜日 (Sat.) 9:30-20:30
日曜日 (Sun.) 13:30-19:30

府中国際交流サロン FUCHU INTERNATIONAL SALON

府中国際交流サロンチラシ(表・裏)



ねんし サロン30年史 1995～2025

府中国際交流サロン創立20周年を迎えた2015年の翌年の「くろすろ〜ど」1月号で20周年の特集を組み、創立から2015年までの年表を掲載しました。今回、サロンの30年をたどる中で、1995年から2015年までの歩みは、その年表を使用しました。

ねん がつ 1995年 4月 サロン創立

発足当時の日本語学習会は、グリーンプラザにて毎週金曜夜1回のみ、6月に金曜午後クラスも増設。



設立を伝える記事(東京新聞 平成7年6月8日より)

ねん がつ 4月 文化交流活動も同時に開始

生け花・絵手紙作り・浴衣の着付け教室・民謡舞踊・料理教室など、幅広い文化活動を通して、外国人の方々との交流をはかる。



えてがみ
絵手紙

いばな
生け花



ゆかたきつ
浴衣着付けなど

ねん がつ 4月 サロン創立時に会報誌「けやき並木」発行

現在の「くろすろ〜ど」の原点。



ねん がつ 1996年 2月 バス研修ツアー開始

毎年1回、日本の文化と歴史を体験するためのバス研修ツアーが行われる。第1回は、江戸東京博物館を訪問。



ねん おだわらじょう
2004年 小田原城



ねん そうか
2014年 草加せんべい作り

ねん がつ 3月 「サロンの集い」始まる

28日に府中グリーンプラザで1回目の「サロンの集い」を開催。その後、商工会議所、サロンのある府中駅北第2庁舎を経て現在のルミエール府中に。



ねん
2010年



ねん
2015年

毎年評判の、世界の料理をはじめ、生け花、絵手紙、民族舞踊など、日頃の活動が紹介される。

ねん がつ 7月 「バーベキューの集い」始まる

毎年、多摩川河川敷でバーベキューの集いが開かれる。2014年は過去最高の74名が参加。



ねん がつ 1997年 6月 学習会が週5回に増設

日本語学習会が、月曜日(午前・午後)、水曜日(午後)、金曜日(午後・夜)の全部で5部会に広がる。



ねん がつ 11月 「くろすろ〜ど」創刊

「けやき並木」を引き継ぎ、「くろすろ〜ど」が創

刊。サロンの活動や世界の文化、またボランティアと
 学習者の方々の投稿などを紹介し紙面での交流
 の場となっている。夏休み8月を除き、毎月発行。
 2014年12月で200号を迎える。



イラスト:小沢智子

■第1回 日本語学習発表会

外国人学習者による日本語での発表会が、東京
 武蔵府中ロータリークラブの協力を得て、府中グ
 リーンプラザにて開始。



■学校訪問、課外授業開始

外国人学習者が市内の小学校を訪れ、課外授業
 を行う。第1回目は、南町小学校を訪問。



2001年 四谷小学校へ

■2001年 日本語教授法研修会始まる

ボランティアが日本語教授法を学ぶ研修会が始
 まる。これまでに、川上京子先生をはじめ、藤森弘子
 先生、横井雅子先生、柏崎雅世先生(2014年～3回)、
 やまだ山田しげみ先生(5回)が講師を担当。



日本語教授法研修会

■2002年 東京外国語大学との連携

東京外大の留学生をサロンの日本語学習会に
 招待。2005年には、学生の協力を得て、外国人児童
 への日本語学習支援が始まる。



■2009年 ボランティア勉強会開始

毎月1回テーマを決め、ボランティアの勉強会
 をスタート。2015年12月で67回目を数える。



2014年 音声学指導

■2013年 国際理解講座～ふるさとを語る～

府中市民を交え、学習者が自分の国の生活・文化・
 歴史を紹介する国際理解講座が始まる。



■井戸端会議(おしゃべり会)

学習者とその家族の生活支援を目指し、情報を
 交換する「おしゃべり会」が発足。



■2015年 4月 サロン創立20周年を迎える



2016年 新会則が施行

2017年 11月18日(土)「サロンの集い」

パルトホールで初開催

※参加者221名・12ヶ国27種類の料理を提供。



4月「生活情報支援部会」が発足



防災(消防)講習会

2019年 2月23日(土)

「留学生と地域交流」講演会

※講師は田崎敦子東京農工大准教授。

2020年 1月24日東京農工大キャンパス

探訪ツアー開催



■コロナの「緊急事態宣言発令」

コロナ感染防止のための何度かの「緊急事態宣言発令」により、「日本語教授法研修会」「サロンの集い」「日本語学習発表会」等、主行事はすべて中止。この年度の学習会は、97回開催(予定回数の49%)。

■会報誌「くろすろ〜ど」が6月号で発刊250号

2021年「国際ふれあい会」を開催

人数制限して2回に分けて開催。

(4月24日・12月4日)



■前年に続き、コロナ禍継続

感染防止のため、主行事はすべて中止。

2022年 3月25日「コロナまん延防止等重点措置」

解除にともない学習会再開

■「日本語教授法研修会」復活

(5月12日～11月 全18回)

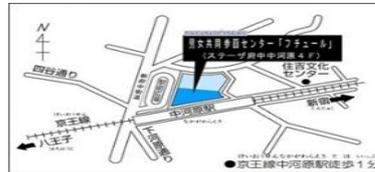
■「バーベキューの集い」復活

(10月22日(土))

多摩川河川敷



2023年 3月12日北第2庁舎からフチュールへ移転



■初の試みの「新年交流会」開催

(1月21日(土) 府中駅北第2庁舎)



■4月 サロンの活動がフチュールで始まる

■初の試みの「夏の交流会」開催

(7月22日(土) フチュール)



■12月「日本語学習発表会」復活

(12月9日(土) フチュール)

※学習者10名が発表。



2024年3月市広報番組「いっしょに、府中」で紹介



■6月 自転車の安全講習会を実施(府中警察署)



■7月・10月「世界の料理やお菓子を楽しむ会」

(7月4日(木)、10月24日(木) フチュール)



2025年 4月 サロン創立30周年を迎える

■会報誌「くろすろ〜ど」が2月号で発刊300号

■3月「サロンの集い」6年ぶりに復活

(3月1日(土) ルミエール府中)



■4月 土曜の学習会を正式に新設

日本語学習会が、月曜日(午前・午後)、水曜日(午後)、金曜日(午後・夜)、土曜日(午後)の全部で6部会に広がる。

2026年 1月31日(土)府中国際交流サロン

創立30周年記念「サロンの集い」(バルトホール)

「サロン30周年記念に寄せて」

もととうきょうがいこくごだいがくひじょうきんこうし やまだ
元東京外国語大学非常勤講師 山田しげみ

サロン30周年を迎え、長く日本語支援、文化交流活動を継続されているサロンの皆様のご努力とご苦勞に、敬意を表すと共に、心から御祝いを申し上げます。

私は東京外国語大学との関わりで、前任の柏崎先生からご依頼いただき、2019年から5回「日本語教授法研修」を担当しました。外大留学生日本語教育センターでは、2002年から国費留学生を中心に18年間、昨夏まではTUFUSオープンアカデミーで、教師養成講座を教えました。

川上先生の勉強会に始まり、横井先生、柏崎先生と続いた研修を引き継ぐことは、プレッシャーでした。国内外の日本語教育機関で長く教えたが、府中サロン学習会のように、学習者とボランティアの多様性が一段と高い「地域日本語教育」に関わるのは初めてで、実状がつかめず緊張のスタートでした。

初級研修で心がけたことは、①外国語として学ぶ日本語の発見と楽しさ②グループワーク③実践的内容です。なかなか思うようにはいかず、ゼロ初級での視覚教材の効果的使用や教え方には、課題が残りますが、毎回、熱心に「タスク発表や最終課題」に取り組む受講生に恵まれ、楽しくやり甲斐のある日々でした。また、研修だけでなく、学習会見学や学習発表会におけるサロンの皆様との交流からも、学ぶことが多く、私にとって大変貴重な経験になっています。

ご存じかもしれませんが、昨今、日本語教育に

は、「CEFR(ヨーロッパ共通言語参照枠)日本語」の採用、それに伴う「Can do(生活・就労・留学)ごとのできることに関する能力評価」・「日本語能力試験結果に参考表示の追加」の導入、「日本語教員国家試験」の開始など変化が起きています。こうした情報も、皆様でぜひ共有していただければと思います。

今後も学習会が、楽しい交流を目指す「共生の居場所・自由な学びの場」として、発展されるよう願っております。最後になりますが、研修部会の皆様には、長い間ご協力と励ましをいただきました。心から御礼申し上げます。



「サロンのマーク&ロゴ制作うらばなし」

金曜午後ボランティア 坂倉 郁夫

わがサロンのマーク&ロゴタイプを制作したのは田中晋さんというデザイナーです。2005(平成17)年、サロン創設10周年の年でした。

田中氏は私の年来の友人。彼が美大デザイン科の学生で私が駆けだしのコピーライターだったときに知り合いました。

彼のキャリアのスタートはパッケージ・デザイナー(タバコの「MILD SEVEN」は彼の作品)でしたが、やがて、持ち前のアイデアと造形力で、ロゴ、マークはもちろんイラストや広告、SP(セールスプロモーション)までも手がけるようになりました。

そんな彼にサロンのマーク&ロゴ制作を依頼するとき、私は臆面もなくこう言いました。

「この仕事、タダでやってもらえないだろうか。名誉が報酬とって」

この厚かましい依頼を彼は「快く引き受けてくれました。そして約1か月後、彼から届いたサロン初のマーク&ロゴが運営委(現・実行委)で披露されると、期せずして委員たちの間から「オー」という感嘆の声があがったそう。プレゼンを代行してくれた当時の副会長がおしえてくれました。

この話を田中氏に伝えると彼は、「喜んでもらえて良かった」につづけて、「これも報酬ですね」と言ってくれたのでした。

最後に、彼が自作に付記したコメントをご紹介します。「マークは平仮名の『ふ』がモチーフ。4つのユニットはふちゅう、ふれあい、ふれんどりー、ふりーを含意。花のイメージはサロンの楽しさ、和やかさの象徴です。ロゴは現代性・品格・

可読性の観点から、和文・欧文ともに、中ゴシック体をベースに制作しました」。



サロンのマーク&ロゴ(用途で選べる2つのパターン)



へんしゅうこうき 「編集後記」

このような周年記念号が待っているとも知らずに会報部会に入れていただいて9か月、おかげさまでいろいろなご縁をいただいています。このご縁がこれからも続きますように。(今井)

本誌の座談会で発足当時の経緯や、企画部を立ち上げた方がロータリークラブの菅野さん等、30年の歴史の一端を知りました。今後も外国人との心豊かな交流の歴史を本誌に残したいと思えます。(末田)

三代目編集長渾身の今月号は、レジェンド揃い踏みで、熱い追憶にあふれました。大切に読み継がれることを願いつつフレッシュなメンバーの躍進とサロンの発展をお祈りしています。(岩城)

この特集企画の立ち上げは昨年11月。しかも普段の8頁仕立てから24頁へ。正月を挟んでの短期間で1月特別号を仕上げた会報スタッフのフットワークの良さに驚嘆と多謝です！寄稿いただいた皆さまにも厚くお礼を申し上げます。(和田)

【創刊】 1997年11月

【編集】 編集長：和田泰弘
会報部会：末田・和田・堤林
岩城・今井

【事務局】 電話：042-352-4178
サロンのホームページ

<https://fuchukokusai.com/>





府中国際交流サロン

FUCHU INTERNATIONAL SALON

